

「武道推進モデル校」事業を活用した 複数種目（なぎなた・柔道）の実践

島根県出雲市立第三中学校
教諭 永井健太郎

本校は、昭和22年に開校し、75年の歴史を誇る。現在、県内で2番目に生徒数が多い大規模校である。新興住宅地の中に美しい田園風景を残した自然豊かな素晴らしい環境の中にある。ふるさと出雲を愛する生徒は多く、日本一誇れる学校を目指し、創意工夫を凝らした活動を積極的にを行っている。部活動も盛んで、保護者や地域の協力も得て、体育系、文化系の多くの部が全国規模の大会、コンクールに出場し、好成績を残している。剣道部についても幾度も全国大会に出場している伝統校である。本稿では、本校のなぎなたと柔道の授業を紹介する。



本校の校舎

1 はじめに

本校は毎年度、武道の授業では柔道を行っている。令和2年度に「多様な武道等指導の充実・武道推進モデル校」の事業を行うことを島根県教育庁保健体育課から提案していただき、なぎなたの外部指導者を派遣していただけることとなった。外部指導者として、本校の卒業生である島根県体育協会



黙想で集中力を高める生徒たち

の安喰愛氏、私立出雲北陵中学・高等学校教諭で、なぎなた部顧問の井上美代氏をお招きした。両氏は、世界なぎなた選手権大会の第6回大会（2015年、カナダ）と第7回大会（19年、ドイツ）の演技の部で連覇しており、世界的にも有名な選手・指導者である。地元出身である両氏に武道の魅力や礼儀作法、なぎなたの基本やおもしろさを教わることは、本校の生徒にとって大変貴重な経験となると考えた。

また、複数種目の武道の実施により、例年以上に「日本の伝統的な行動様式に触れる」「わが国固有の文化の良さに触れる」「相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする」を身につけることができると考えた。

2 なぎなた・柔道の指導計画

(1)実践のねらい

- ・なぎなたや柔道などを通して日本の伝統的な行動様式に触れ、静と動のけじめのある身のこなしを体感するとともに、わが国固有の文化の良さに触れる。
- ・なぎなたの変化に富んだ多様な動きを体験し、達成感や充実感を味わう。
- ・武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を大切にしようとする

ことや、健康・安全に留意することができるようになる。

(2)多様な武道の指導モデル(表1)

- ・本校の学級数や他学年の授業、学校行事などを考慮して、第2学年のみで実施、なぎなたの授業は2時間とした。

(3)指導の工夫

▼効果的に指導するための工夫

- ・オリエンテーションでなぎなた、柔道の映像を視聴させ、生徒の興味・関心を高めるようにした。また、生徒の運動量を確保するために、なるべく説明を簡潔にし、時間を短くした。
- ・外部指導者と綿密に打ち合わせを行い、指導内容や指導のポイントを確認した。また、生徒にはなぎなた経験者がほとんどいないため、初心者でも簡単にできる基本動作の指導をお願いした。

▼生徒の安全を確保するための工夫

- ・なぎなたを使用することや生徒の人数を考慮し、体育館フロアを使用。活動スペースを確保した。
- ・外部指導者と教員で道具の欠損などがなければ十分に確認した。
- ・なぎなたを使用する際は、周囲



構え方の確認



外部指導者による模範演技 (左が安喰氏)



足さばきの練習



正面打ちの練習

▼成果
なぎなたの授業を先に行い、外部指導者から礼儀作法について指導していただくことで、生徒により強く意識させることができ、改めて礼儀作法の大切さを学ばせることができました。また、なぎなたで学んだ礼儀作法を柔道の授業でも活かすことができました。

【なぎなた】
外部指導者の説明や示範が非常に分かりやすく、生徒が十分に理解しながら活動することができました。さらに達成感や充実感を味わうことができ、なぎなたの楽しさや魅力を感じさせることができました。初めて柔道以外の武道に触れた生徒が多く、興味・関心を持つて取り組む姿が見られた。

5 成果と課題

る技が多くてよかった」という意見が多かった。また、剣道部の生徒は「技の打ち方や足運び、構え方が(剣道と)違っておもしろかった」「なぎなたのことをもっと知って、剣道との違いや良さを知っていきたい」という感想を残していた。剣道部員のみならず、多くの生徒がなぎなたを楽しみ、魅力を感じることができた。

として大事なことを学べてよかった」「柔道の授業で習った左座右起(※注)や礼の仕方を再確認することができてよかった」など礼儀作法についての記述が多く、礼儀作法の大切さを改めて感じた生徒がいることが分かった。
(※注) 左座右起⇨座るときは左足から、立つときは右足から動かすという意味。かつて武士が刀を左差しにしていたことによる。

令和2年度 指導計画「なぎなた・柔道」(第2学年)

| 時数 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 |
|-------|--------------------|------------------|-----------|----------|---|---|---|--------|---|----|----|---------|
| 種目 | なぎなた | | 柔道 | | | | | | | | | |
| 学習の流れ | あいさつ、健康観察、本時の目標の確認 | | | | | | | | | | | |
| | オリエンテーション | 足さばき 構え 学習 | オリエンテーション | 準備運動・受け身 | | | | | | | | 投げ技のテスト |
| | | | | 固め技の復習 | | | | 投げ技の学習 | | | | |
| | 本時の振り返り、次時の連絡、あいさつ | | | | | | | | | | | |

3 授業の様子

に気を配り、安全な距離を保つて実施するよう指導した。
なぎなたを使用する際の細かい

注意事項を外部指導者に説明してもらい、生徒にけががないように留意した。

4 生徒の感想、意識、変容など

なぎなた授業に対する生徒の感想を見ると、「楽しかった」「またやりたい」という意見や、「初め

て経験したけど講師の方が分かりやすく教えてくださったので楽しかった」「初心者でも簡単にでき

【なぎなた】

外部指導者の丁寧かつ分かりやすい指導の下、生徒は楽しく真剣に学習を進めることができた。構えや足さばき、側面打ちや脛打ち(すねうち)などの基本的な動作を行った後、授業のまとめとして打ち返しの練習を行った。この流れが生徒にとって非常に分かりやすいものだった。また、生徒の大半はなぎなた

の経験がなかったが、ほとんどの生徒が達成感や充実感を味わうことができた。

【柔道】

柔道の授業は外部指導者を招かず、教員が行った。1年時で学習した礼儀作法や受け身、固め技を復習し、投げ技(小内刈り・大内刈り・大腰・体落とし)を練習し、最後に投げ技のテストを行った。

柔道の授業は外部指導者を招かず、教員が行った。1年時で学習した礼儀作法や受け身、固め技を復習し、投げ技(小内刈り・大内刈り・大腰・体落とし)を練習し、最後に投げ技のテストを行った。



打ち返しの練習

教員も、外部指導者の説明や分かりやすい声かけ、授業の進め方など、学ぶことがたくさんあり、他学年の授業や次年度の指導に活かすことができた。

【柔道】

生徒の安全を確保するために十

分にスペースを確保して行った。また、畳の破れや畳と畳の間がないかを確認した。投げ技の練習で生徒同士の接触がないように、投げる順番や向きを細かく説明し、分かりやすい授業を心がけた。また、なぎなたの授業で学んだ礼儀作法を活かすことができ、いい緊張感の中で授業を行うことができた。

▼課題

【なぎなた】

今回は2時間の実施で終わってしまい、十分な活動ができたとは言えない。あと2時間程度、活動時間を増やすと学習がより深まると考える。しかし、外部指導者との日程調整や、他学年の授業との調整が非常に難しく、活動日数も十分に確保できない。事前に外部指導者と綿密に連絡を取り合う必要があり、他教科・他学年の協力が不可欠である。

また、本校は全校生徒数が760名を超える大規模校であり、体育の

授業は2学級合同で行っている。体育館フロアの広さに対して生徒の数が多く、十分な活動量を確保することが難しい。場所の工夫などの配慮が必要である。

なぎなたの技術的な指導は外部指導者に行っていたが、教員は生徒の安全面への配慮を最終行った。しかし、生徒の数が多く、外部指導者だけでは十分に技術指導を行えない場面も見られた。今後は教員が知識を増やしていき、教員も技術指導ができるように努めたい。また、外部指導者との役割

6 おわりに

今回の複数種目による武道授業を通して、武道がわが国固有の文化であることや相手を尊重すること、礼節を重んじることの大切さを例年以上に身につけさせることができた。複数種目を経験することで教員・生徒ともに多様な学び

分担を明確にした指導計画を立て、さらに充実した授業を実施したい。

【柔道】

投げ技の授業では、初めに教科書を見ながら技のポイントを確認し、教員が模範演武を行った。なぎなたの授業と同じように初めに模範を示すことで、生徒は理解しながら技の練習に取り組むことができたが、今後、さらに分かりやすく模範演武ができるよう、教員が研修などに参加して専門性を高めていきたい。

を得ることができた。活動場所や日程調整などさまざまな課題もあるが、今後も「武道推進モデル校」事業を活用させていただき、多様な学びを通して、生徒が大きく成長することを期待したい。